



建築物総合環境計画概要書 新築

■使用評価マニュアル:「CASBEE大阪みらい 新築」2018年版 (v.1.2.1) ■使用評価ソフト:「CASBEE大阪みらい 新築」2018年版 (v.1.2)

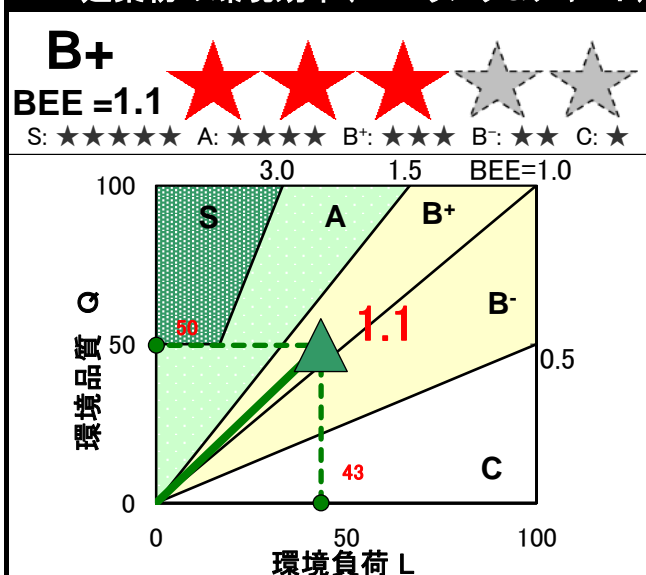
1-1 建物概要

| | | |
|---------|-----------------|----------------|
| 建物名称 | SE宮原2丁目IIPJ新築工事 | |
| 建設地 | 淀川区宮原2丁目 | |
| 建築用途 | 共同住宅 | |
| 建築主 | (株)スナダプロパティ | |
| 設計者 | (株)TK都市建築設計 | |
| 敷地面積 | 925.90 | m ² |
| 建築面積 | 394.15 | m ² |
| 延床面積 | 4,317.16 | m ² |
| 構造/階数 | RC造 | / 地上14階 |
| 完了年(予定) | 2027年6月 | |

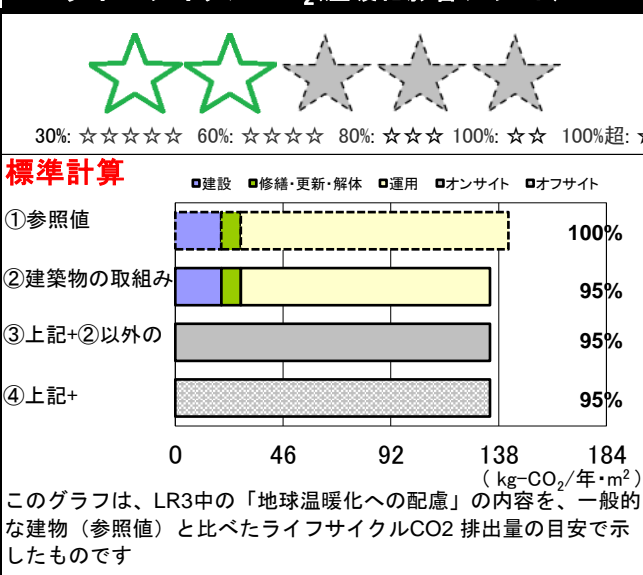
1-2 外観



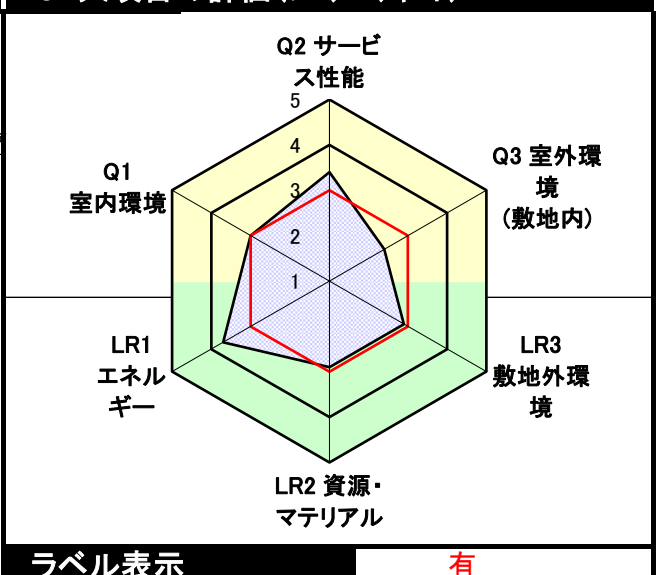
2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



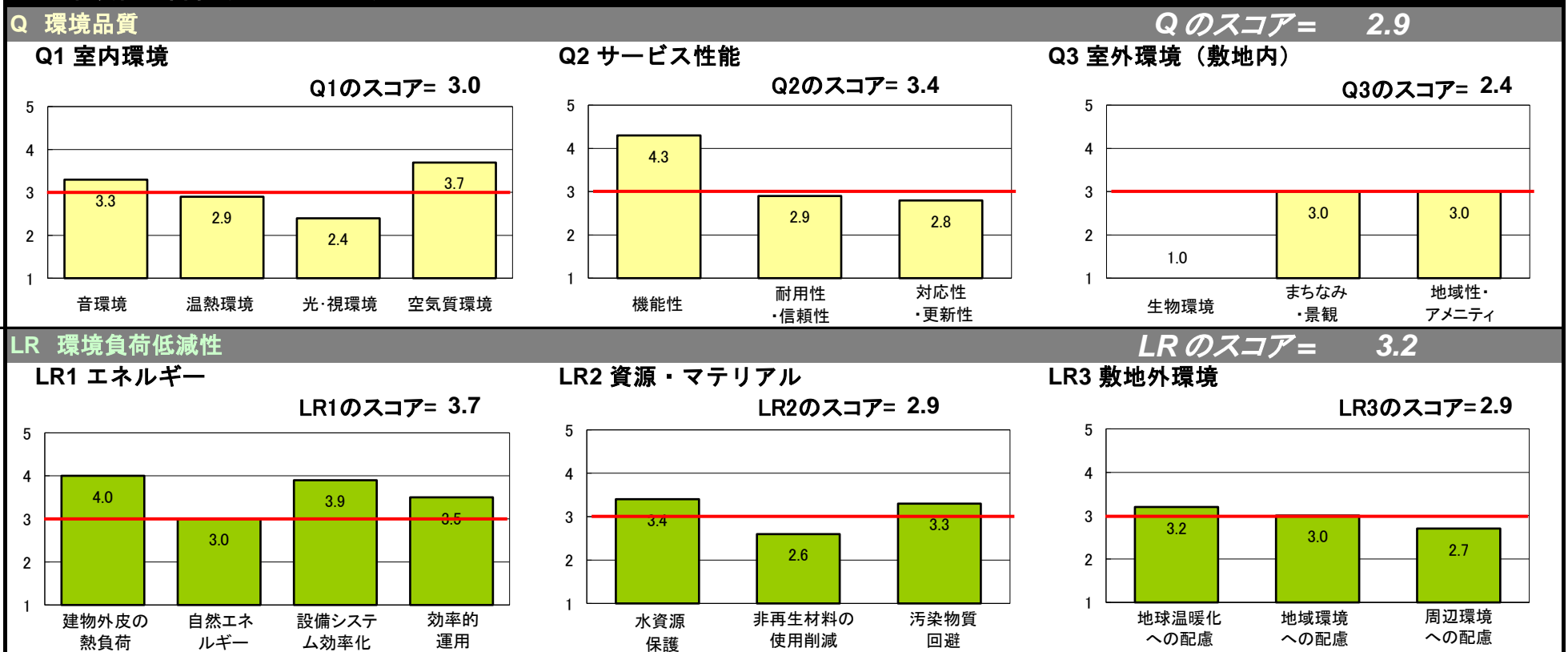
2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)



2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



2-4 中項目の評価(バーチャート)



3 設計上の配慮事項

| | |
|--|---|
| 総合 シンプルなデザインかつ合理的な設備配置で設備効率がよく省エネに配慮した。明快な歩車分離の動線と、平面駐車スペースの確保による、車・バイク・自転車の利便性の確保された集合住宅。 | その他 |
| Q1 室内環境 サッシにLow-E複層ガラス、界壁に遮音間仕切り等を使用している。断熱材の厚みも床、壁、天井に厚めに設置し、外皮性能の向上を意図して使用した。建築建材にはF☆☆☆☆を使用、空調換気等にも配慮した。 | Q2 サービス性能 バリアフリーの基準を満たし、天井高さを確保して、室内空間にゆとりを作った。共用部エントランスや室内空間はブランドマンションシリーズの一つとしてデザインに配慮している。 |
| LR1 エネルギー 一次消費エネルギーはBEI=1.0以下とし、空調換気等の設備システムの効率化を図っている。 | LR2 資源・マテリアル 節水型水栓やノンフロン断熱材の使用して、資源の節約に貢献。 |
| | Q3 室外環境(敷地内) 駐車場への進入スペースや、敷地内の自転車・バイク等の通路の確保に配慮した。駐車場は平面駐車場とし、前面道路からの明快な車路の視認性と十分な通路幅を確保。歩車分離の動線とした。また、庭園灯を駐車場の後部に配置した。 |
| | LR3 敷地外環境 賃貸マンションの多い商業地域に馴染むように、前面道路からのアプローチのしやすさと外観デザインには配慮した。 |

建築物環境性能表示 結果〔重点評価〕

総合評価BEE = 1.1

ラベル表示



| 環境性能 | | 評価点 |
|----------------|--|-----------|
| (1)CO2削減 | | 3.0 |
| CO2削減に配慮した環境性能 | | 概要記入欄 |
| LR3/ 1 / / | 地球温暖化への配慮 | 3.2 交通抑制等 |
| 配慮事項 | 駐車場を全て平面駐車場とし自動車の利便性に配慮した。また、自転車の通路幅を大きく取り、交通に余裕を持たせた。 | |

| 環境性能 | | 評価点 |
|-------------------------|---------------------------------------|---------------|
| (2)みどり・ヒートアイランド対策 | | 2.0 |
| みどり・ヒートアイランド対策に配慮した環境性能 | | 概要記入欄 |
| Q3 / 1 / / | 生物環境の保全と創出 | 1.0 |
| Q3 / 3 /3. 2/ | 敷地内温熱環境の向上 | 3.0 植栽を敷地内に確保 |
| LR3/ 2 /2. 2/ | 温熱環境悪化の改善 | 3.0 |
| 配慮事項 | 前面道路沿いと敷地内に中木を規定以上に多めに配置し、景観・緑化に配慮した。 | |

| 環境性能 | | 評価点 |
|----------------|--|------------------|
| (3)建物の断熱性 | | 4.0 |
| CO2削減に配慮した環境性能 | | 概要記入欄 |
| LR1/ 1 / / | 建物の熱負荷抑制 | 4.0 外皮性能の向上を図った。 |
| 配慮事項 | 開口部サッシは、Low-E複層ガラスを使用。断熱材も厚みを持たせて、外皮性能の向上を図った。 | |

| 環境性能 | | 評価点 |
|----------------|--|---------------------|
| (4)エネルギー削減 | | 4.0 |
| CO2削減に配慮した環境性能 | | 概要記入欄 |
| LR1/ 3 / / | 設備システムの高効率化 | 3.9 設備システムの向上に配慮した。 |
| 配慮事項 | 一次エネルギー消費量を抑えて、BEI=1.0以下にした。空調設備や給湯設備、水栓等で、エネルギー削減を推進した。 | |

省エネルギー基準計算結果

| | |
|--------|----|
| 基準適合状況 | 適合 |
|--------|----|

※ 外皮性能については、住宅部分が等級4(相当)以上、非住宅部分が1.0以下であること
 ※ 一次エネルギー消費量については、建物全体のBEI、BEImが1.0以下であること(新築時)
 (基準適合義務がある部分については、その部分のBEI、BEImが1.0以下であること)

| | | | |
|------------|---|------------------------------------|------------------------------------|
| 外皮性能 | 住宅部分(品確法等級) 等級4 (相当) | 非住宅部分[BPI][BPI _m] - | |
| 一次エネルギー消費量 | 建物全体[BEI][BEI _m] 0.91 | 住宅部分[BEI] 0.91 | 非住宅部分[BEI][BEI _m] - |